京都府立京都学・歴彩館 海外若手研究員による
府民向けセミナー（開催報告）

２０２４年9月20日
京都府立京都学・歴彩館
０７５−７２３−４８３５

京都府立京都学・歴彩館では、世界とつながる京都学の研究・交流拠点をめざし、国内外からの幅広いアプローチにより京都文化の普遍的な価値を研究、発信するため、2017 年度から、日本研究・京都研究の優秀な海外若手研究者を京都学研究員として招聘しています。

このたび、２０２４年度の京都学研究員による府民向けセミナーを下記のとおり開催しましたので報告します。

記

■ 日　　時　　２０２４年9月２０日（金）　１３時半～１４時半
■ 場　　所　　京都府立京都学・歴彩館 小ホール
■ 講　　師　　京都学研究員　マルタン・ノゲラ・ラモス（フランス）
■ テ ー マ　　「１８８０年代日本の出版物にみるカトリック教会の布教活動
　　―京都と高知の事例を中心に―」
■ 参 加 者　　計５９名

■ セミナーの様子

１８８０年代の日本の新聞記事の調査分析等を通じて、大阪・高知で活動したマラン・プレシ並びに、京都に滞在し、仏教の諸宗派とも親しく交際したエメ・ヴィリヨンという、二人のフランス人カトリック宣教師の活動に光を当て、明治中期に至るまでの日本人へのパリ外国宣教会の布教活動及び国家による監視・抑圧を中心としない近代初期日本の「カトリック史」を再考する研究発表が行われた。

講師の発表のあと、活発な質疑応答が行われ、研究者と参加者の交流を図りつつ、研究内容についての理解を深め、好評を博した。

■ 参加者コメント（抜粋）

- 「明治初期のカトリックの動きが分かり、大変面白かったです。」
- 「明治初期のカトリック宣教師の布教について、プロテスタントとの比較を中心に解説されており、大変興味深かった。」
- 「明治期日本におけるカトリックとプロテスタントの競争、せめぎ合いが面白かった。特にカトリック布教をフランス人が担っていたのが興味深い。」
- 「1880 年代の日本に一生懸命溶け込もうとしたことが、ヴィリョンとプレシの史料、書簡などで紹介されていて興味深かった。」
- 「明治期の布教活動の一端、布教者側の視点がよくわかりました。」
- 「長年、京都在住ですが、知らなかったことが多く、興味深く聞かせていただきました。」
- 「日本人の伝道師がいたとか、知らないことも多く勉強になりました。」
- 「写真や史料を交えてとても興味深い講義でした。プレシ神父のお話も面白かったです。ありがとうございました。」
- 「普段あまり接することのないテーマで興味深かった。」
- 「日本人でも読みこなせない文書を研究されすごいです。感心しました。」
- 「海外研究員の視点が面白かった。今後の研究の進展が楽しみです。」

府民向けセミナーの様子

会場風景

ラモス氏の発表

ラモス氏の発表

発表後の質疑応答